

大会名 Competition	日本スポーツマスターズ秋田大会2016 女子の部
女子準決勝	Year Month Day Time 2016 年 9 月 26 日 13 : 05
場 所 Place	三種町琴丘総合体育館



秋田県バスケットボール協会

チームA		チームB										
大阪B	<table border="1"> <tr><td>18 1st</td><td>6</td></tr> <tr><td>16 2nd</td><td>16</td></tr> <tr><td>16 3rd</td><td>6</td></tr> <tr><td>10 4th</td><td>11</td></tr> <tr><td>OT</td><td></td></tr> </table>	18 1st	6	16 2nd	16	16 3rd	6	10 4th	11	OT		京 都
18 1st	6											
16 2nd	16											
16 3rd	6											
10 4th	11											
OT												
60 ○		39 ●										

主審:Referee
佐々木 勉 秋田

副審:Umpire
柏谷 優子 秋田
菅原 桃子 秋田

テーブル・オフィシャル:Table officials
県立能代高等学校女子バスケットボール部

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
6	×	奥 殿 友侑子	CAP	8	2	1	0	0	4	×	近 藤 美佐子		2	0	1	0	2
7	/	大 原 律子		8	1	1	3	1	5	/	山 本 理 恵		10	0	5	0	2
8	/	林 裕 美		0	0	0	0	1	6	前 田 美 貴	CAP	-	-	-	-	-	
9	×	石 橋 真理子		5	1	1	0	0	7	×	大 谷 めぐみ		6	0	3	0	4
10	×	西 村 ちよ		3	0	1	1	1	8	×	藤 吉 真 理		13	2	3	1	3
11	/	松 任 理 佳		0	0	0	0	0	9	×	林 智 子		8	2	1	0	2
12	×	川 上 奈恵美		8	2	0	2	1	10	林 幸 江		-	-	-	-	-	
13	/	畑 岸 邦 枝		3	0	1	1	1	11	大 川 一 華		-	-	-	-	-	
14	×	金 田 祥 子		1	0	0	1	1	12	/	中 西 仁 美		0	0	0	0	0
15	/	中 野 厚 子		6	0	3	0	1	13	川 崎 ゆう子		-	-	-	-	-	
16	/	村 上 なおみ		8	0	3	2	2	14	片 山 真 理子		-	-	-	-	-	
17	/	松 田 洋 子		10	2	2	0	0	15	中 川 美智子		-	-	-	-	-	
				-	-	-	-	-				-	-	-	-	-	
				-	-	-	-	-				-	-	-	-	-	
				-	-	-	-	-				-	-	-	-	-	
				-	-	-	-	-				-	-	-	-	-	
				-	-	-	-	-				-	-	-	-	-	
				-	-	-	-	-				-	-	-	-	-	
				-	-	-	-	-				-	-	-	-	-	
コチ		奥 殿 友侑子							コチ		橋 本 雅 子						
Aコチ		中 野 厚 子							Aコチ		林 綾						
合 計				60	8	13	10	9	合 計				39	4	13	1	13

※×:スターター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* インドシュート 2P:2P* インドシュート FT:フリースロー F:ファウル

準決勝第1試合は大阪選抜Bと京都の対戦となった。
 第1Q:大阪ハーフコートマンツーマン、京都2-1-2のゾーンディフェンスでスタート。序盤は大阪#9石橋と#12川上の連続3Pなどでペースを掴む。その後も大阪#13畑岸がオフェンスリバウンドからゴール下を決める。一方京都は#5山本のミドルシュートや#7大谷の1対1からのドライブで対抗する。残り2分更に大阪はプレッシャーを強め、2-2-1プレスを仕掛けてミスを誘い、18-6の12点リードで1Qを終える。
 第2Q:立ち上がり大阪は素早いボール回しからシュートチャンスを作り、#17松田の連続3P、#6奥殿も3Pを沈めて19点差までリードを広げる。京都も#9林の3Pや#7大谷のドライブで追い上げる。大阪は1-2-2のゾーンプレスから3-2のゾーンにディフェンスを変えるも京都が3Pを決めて徐々に点差を縮めていく。第2Qは16-16の同点と京都が踏ん張りを見せたが、前半を34-22のスコアで、大阪が12点リードで前半を終了。
 第3Q:京都はディフェンスをマンツーマンに変える。立ち上がりは両チームともシュートを決めることができずに得点を伸ばすことができない。残り5分30秒、京都#5山本がインターセプトから速攻を決めたところで大阪がタイムアウトを請求。大阪は選手を交代しながら積極的に走り、ハーフコートでも足を止めずに攻撃を仕掛け、高さを生かしたオフェンスリバウンドからゴール下を決め、徐々にリードを広げる。50-28の大阪22点リードで第3Qを終える。
 第4Q:京都はハイポストを起点に大阪のゾーンディフェンスを崩し#8藤吉のジャンプシュートや3Pで流れを掴む。一方大阪は#16村上のゴール下や#12川上の3Pで点差を戻して20点差をキープする。60-39の大阪21点リードで試合終了。準々決勝、準決勝と1日に2試合行う厳しい日程の中、両チーム最後までボールを追いかけゴールをねらう素晴らしいゲームとなった。